

プロジェクト事業（世羅町）の現地調査について

2017年3月27日に、代表の生命環境学部村田和賀代准教授、分担者の地域連携センター上水流久彦准教授で世羅町大見地区の調査をおこないました。生命科学科2年の学生も参加して、大見地区の空き家の状況や就業の場となる施設を訪れました。

最初に大見地区自治センターで梶川センター長より大見地区の人口変化や空き家と思われる家の軒数、商店や医療機関などの状況について説明を受けました。その後、世羅町で移住等を業務としている地域おこし隊の隊員も一緒に大見地区を見て回りました。せらワイナリーがある地域は、若者も比較的多く、様々な観光施設がある一方、標高が高いところでは甲山（世羅町の中心部）に日常生活の拠点をもち、時々しか戻ってこない地域もありました。

午後7時からは大見地区の地域住民と空き家について意見交換会を行いました。住民からは世羅町の空き家バンクの仕組みについてもっと説明が欲しいことや住宅のみならず山は田んぼ、畑もセットで売りたい希望があることなどの意見がだされ、世羅町や大学側からは住民が古いと思っている住宅にこそ価値を見出す移住者がいるなどの指摘が出されました。10年後の地区の現状を見据えて、空き家対策が必要であるという点で一致を見ました。



せらワイナリーでの説明



世羅町大見地区の様子